

# ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲン

## 【使用目的又は効果】

本品は、骨再生誘導法(GBR 法)を行う際に、抜歯窩および(インプラントの安定性が既存骨により得られており、かつ、本品を使用した部位に咬合負荷等の荷重がかからない)インプラント周囲の骨欠損を含む骨欠損部に充填し、骨再生のために用いる。本品は自家骨と併せて用いることがある。

※添付文書(第1版)より抜粋

製品の詳細に関しては、添付文書等でご確認ください。

## ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンの特長

ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンは、ガイストリッヒ バイオオス® 顆粒90%と豚コラーゲン10%の骨補填材で、抜歯後のポンティック下の歯槽堤の保存とインプラント周囲の骨再生に適しています。

### ガイストリッヒ バイオオス® 90% + 豚コラーゲン 10%

ガイストリッヒ バイオオス® の特長である、ヒト海綿骨と同様の物理的および化学的特性を有するため骨の再形成を促進し、10%の豚コラーゲンが欠損部への適応を容易にします。また、コラーゲンは数週間かけて緩徐に吸収されます。(添付文書第1版より抜粋)

### 容易なハンドリング

ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンはスポンジ状の素材であり、トリミングが容易です。(添付文書第1版より抜粋)

## 容易なハンドリング



トリミングが容易

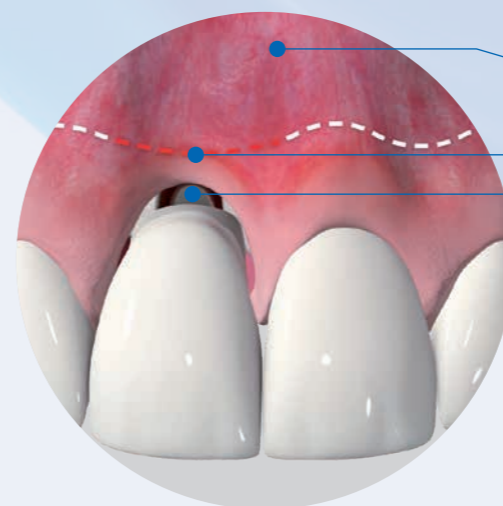
ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンは乾いた状態でも、湿らせた後でも、メスかハサミを使ってトリミングできます。



配置が容易

ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンは欠損部位に容易に配置できます。

## 無処置 vs ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンと ガイストリッヒ バイオガイド® を用いて インプラント即時埋入時に間隙を埋めた場合の比較



インプラント即時埋入だけでは、抜歯後の歯槽堤ボリュームを維持することはできません。<sup>1,2</sup>

無処置の場合、ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンとガイストリッヒ バイオガイド® を用いてインプラント周囲の隙間を埋めるよりも 水平的な歯槽堤吸収が 2.7 倍多くなりました。<sup>1</sup>

水平的な歯槽堤吸収は、審美領域(上顎前歯部)で、頬側骨板が薄いほど顕著です。<sup>3</sup>

間隙を埋めなかった場合[1年後]



### 水平方向の骨量

22%の水平方向の体積減少<sup>1</sup>

ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンと  
バイオガイド® を用いて間隙を埋めた場合[1年後]



### 水平方向の骨量

92%の水平方向の体積を維持<sup>1</sup>

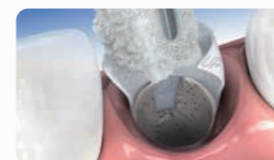
## ガイストリッヒ バイオオス® コラーゲンの使用が可能な治療例



**インプラント周囲の局所的骨造成** ※非荷重条件下  
既存骨にインプラント体が埋入され、初期固定が得られた状態で、スレッドの露出・開窓などの軽微な骨欠損がある症例



**抜歯即時インプラント埋入** ※非荷重条件下  
抜歯後にインプラント体が埋入され、初期固定が得られた状態で、インプラントと頬側骨壁との間に骨欠損がある症例



**歯槽堤保存術(リッジプリザベーション)** ※非荷重条件下  
抜歯後の歯槽堤吸収を抑制するための、ポンティック下で歯槽堤保存術を用いる症例(インプラント体を埋入するための歯槽堤保存術は適応外)

※非荷重の定義は、インプラント体が骨造成部位に荷重がかかっていない状態を指し、具体的には埋入されたインプラントが既存骨にのみ荷重がかかった状態を指します。  
インプラントの初期固定：各インプラントメーカーのガイドラインに従ってください

製品の詳細に関しては、添付文書等でご確認ください